



おもしろい
大学

富山大学
University of Toyama

2027

教育学部

School of Education

学部案内

共同教員養成課程

Joint Institute of
Teacher Education

富山大学
×
金沢大学

未来の先生になるための学びが、ここにある。

富山大学教育学部は、金沢大学人間社会学域学校教育学類との間で共同教員養成課程を設け、小学校・中学校（高等学校）・特別支援学校・幼稚園の教員を養成しています。実践力のある教員を育てる教育が行われ、すでに卒業生が現場で活躍しています。

授業では、子どもの発達や教科の指導法といった基礎から、プログラミング教育や外国語教育など、これからの時代に必要とされる内容まで幅広く学びます。さらに、富山県教育委員会との連携や学校現場での実習を通して、「実際に教える力」を段階的に身につけていきます。

大きな特徴は、小学校の免許に加えて、もう一つの校種（中学校・幼稚園・特別支援学校）の免許も取得できることです。異なる発達段階の子どもを理解することで、より広い視点から教育を考えられる力が育ちます。複数の校種の教育実習を経験できるのも魅力です。

「子どもに関わる仕事がしたい」「教えることに興味がある」「教育を通して社会に貢献したい」—— そんな思いを持っている人にとって、ここには実践的に学びながら成長できる環境があります。富山大学教育学部で、これからの教育を担う力を身につけてみませんか。

CONTENTS

高校生の皆様へ	3
教育学部の特徴	4
卒業生インタビュー	6
豊かな人材を育てるために	8
ポリシー・入試関係	9
子どもとのふれあい体験	10
開設科目の紹介	12



富山大学 教育学部長

片岡 弘

富山大学教育学部では、金沢大学人間社会学域学校教育学類と連携し、両大学の教員が協力し、専門性を活かした一体的な教育課程を展開しています。これが本学部の大きな特長であり、富山大学の学生は、富山大学の教員による授業に加えて、金沢大学の教員による授業も受講し、幅広い知見に基づく学びを実現しています。

私たちが大切にしているのは、「教えること」への理想と情熱をもち、実践的な知識・技能を身につけるとともに、広い視野と豊かな人間理解力を兼ね備えた教員の育成です。特に、子どもの心に寄り添い、共に成長する力を重視しています。

教員の仕事は、子ども一人ひとりと真摯に向き合う細やかな配慮と柔軟な対応力が求められますが、その分、子どもの成長に深く関わり、日々の学びの中での発見や感動を共有できる、意義深くやりがいのある職業でもあります。

地域の子どもたちとともに学び、ともに育つ——そんな教員を、私たちと一緒に目指してみませんか。

皆さんとお会いできる日を楽しみにしています。

高校生の皆様へ



金沢大学人間社会学域
学校教育学類長

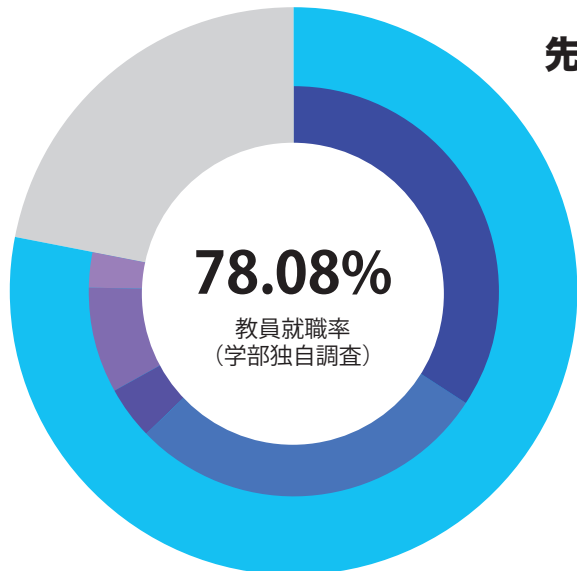
武居 渡

富山大学と金沢大学では、令和4年度より共同で教員養成を行っています。両大学の学生は、両大学の教員が担当する講義を履修することができ、幅広い知見を得て、教育現場に向かうことができるカリキュラムを用意しています。しかし、理学部や人文学部でも中学校や高校の教員免許は履修できます。教育学部とこれらの学部との違いはどこにあるのでしょうか。

教育学部以外の学部は、基本的に教科内容を学ぶカリキュラムになっていて、その教科をどのように教えるかについての授業は必要最低限です。しかし、教育学部では、教科そのものを学ぶのではなく、教科内容をどのように教えるかを学ぶカリキュラムになっており、教科内容にかかわる講義も将来教員になることを想定した授業になっています。

教員になりたい皆さんに、卒業後、自信をもって教壇に立てるよう私たちは皆さんをサポートしています。

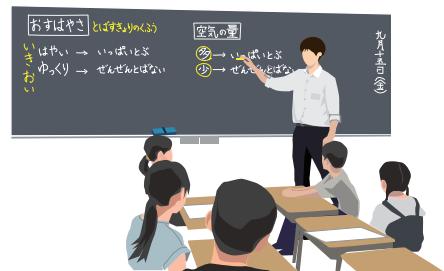
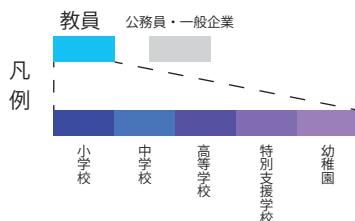
富山大学と金沢大学の教員全員、教員を目指す皆さんの入学を心よりお待ちしております。



先生になりたい。その気持ちに、本気で応える学部です。

教育学部第一期卒業生の教員就職率※が78%以上となり、高い教員就職実績を実現しました。現代的な教育課題を意識した教員養成カリキュラムと豊富な現場体験実習により、確かな教育力を備えた人材を社会へ送り出しています。

※卒業生数から大学院等への進学者と保育士への就職者を除いた数を母数とした教員就職率(学部独自調査による)



教育学部の特徴

取得可能な免許

● 小学校教諭一種免許状 (取得必須)

- 幼稚園教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状 (国語・社会・数学・理科・音楽^{*}・美術^{*}・保健体育・家庭・英語)
- 高等学校教諭一種免許状 (国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽^{*}・美術^{*}・保健体育・家庭・英語)
- 特別支援学校教諭一種免許状 (聴覚障害者・知的障害者・肢体不自由者・病弱者)

^{*}音楽免許科目および美術免許科目のうち一部の科目は金沢大学・角間キャンパスで開講

〔資格〕

- 保育士
- スポーツコーチングリーダー (日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格)
- 公認スポーツ指導者 共通科目Ⅰコース修了 (日本スポーツ協会)

小学校教諭一種免許状以外の免許状については、どの免許状を取得するかは、各自の志向にあわせて選択することが可能です。これらの免許状については二種免許状でも構いません。

卒業要件

小学校教諭一種免許状の取得は卒業のための必須要件です。その他に、幼稚園、中学校、特別支援学校のいずれかの免許状を取得することが卒業要件になります。小学校以外の免許状については選択可能ですが、教育実習の実施計画等により人数制限を設けることがあります。

小学校

+

中学校 (高等学校^{*})

幼稚園

特別支援学校

※必要単位修得により、関連する高等学校教諭一種免許状も取得可能 (卒業要件外)

いずれかを取得 (二種免許状でも可)

一種免許状を必ず取得

多彩な専門科目を用意し 幅広い知識の獲得をサポート

現代的教育課題に対応した先進的科目を中心に、富山大学と金沢大学の教員が相互に相手大学に授業を提供しています。学生は幅広いテーマや分野の科目を履修することができます。金沢大学が提供する科目についても、実技などの一部を除き、富山大学キャンパスで対面または遠隔授業によって開講されるため、金沢大学へ移動する必要はありません。



専用回線またはインターネット回線



学生ユニットと科目グループ

学生は入学すると数人ずつに分かれ、1～4年次の十数人の学生で「学生ユニット」を構成します。各ユニット単位の活動や、富山・金沢両大学のユニット同士の共同活動を通じて、他学年との交流に加え、同学年でもさまざまな教科、校種を目指す仲間との交流や学びが促進されます。

一方、専門的な知識や技能については、各自の取得希望免許や関心に応じた「科目グループ」を主体として学びます。

このように学生ユニットと科目グループの2つの仕組みを活用したユニークな教育・指導体制によって、学生の主体的な学びを促進しながら、広い視野を持った学校教員に育てていきます。

自由度の高いゼミ・研究

小学校免許科目に加えて、卒業要件を満たせば、各教科の教育法や教科専門科目を学生の志向に合わせて履修できます。また、教員の専門は各教科の他にも、心理学や教育学など、教科を横断する教育に必要な内容を研究している先生がいます。卒業研究において、学際的な視点や教科横断型の研究を進めることもできます。



実習を重視し、1年次から教育現場を体験

4年間の学修の流れ

1年次は教養教育科目を履修しつつ、学校体験活動で教育現場を経験します。2年次以降は、専門的な知識・技能に関する教育と、教育実習の観察参加(2年次)、教育実習(3年次以降)等を並行して履修します。

このように、専門性と実践力を兼ね備えた教師を育成するためのカリキュラムを用意しています。

また、専門科目における教科教育の授業においても模擬授業を実施する場合が多く、事前指導なども含め、密度の高い教育実習に結びつけるためのカリキュラムも充実しています(右図)。

金沢大学との合同の活動

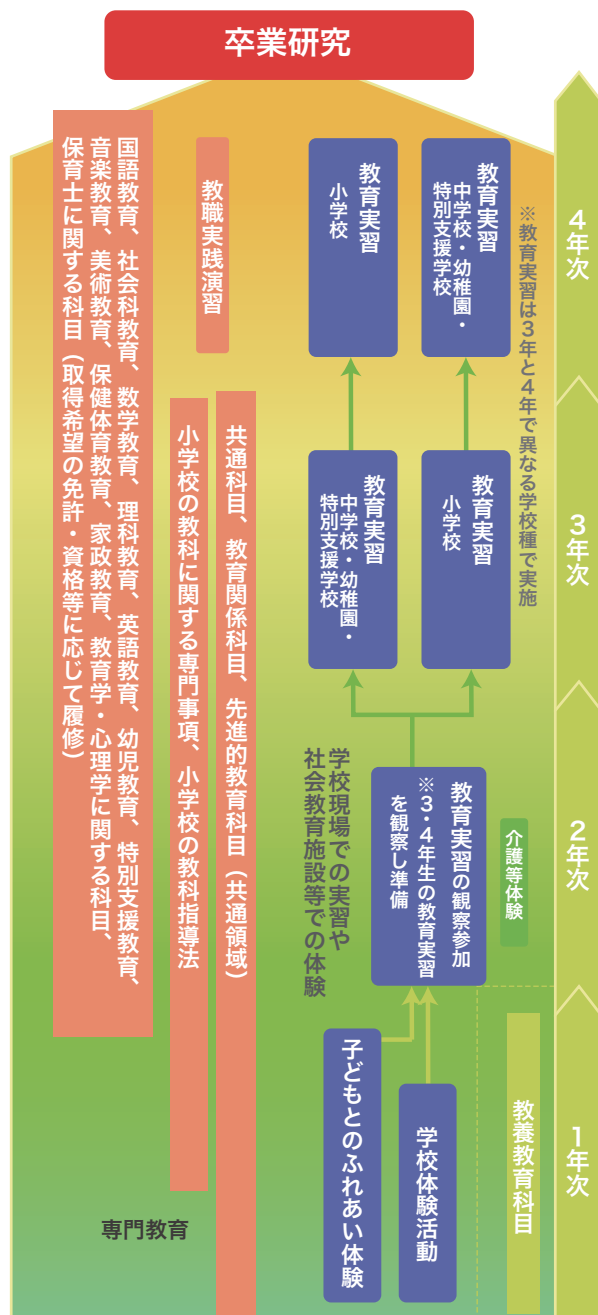
野外体験活動

小学校や中学校で実施されることの多い野外体験活動の目的と学習効果について、自然体験合宿を通して実践的に学びます。また、合宿の準備、実体験、振り返りを通して子どもの発達段階に対応した野外活動の指導に必要な知識や技術を習得します。



エクスカーシオン

学生が企画し、富山大学と金沢大学の同じユニットが合同で参加する体験型の活動です。活動形式は企画する学生たちが決め、互いの交流も目的として計画を立てます。必要事項が記された「しおり」の作成や実際の運営など、子どもたちを引率する立場になった時にどのように行動すれば良いかを意識しながら活動します。



学びと実践がつながる教育学部

卒業生インタビュー

多田陽南 さん・中山一心 さん（令和8年3月卒業）

4年間を振り返って

—— 4年間を振り返ってみてどうでしたか。

中山：ゼミの活動が始まってから、大学生活がさらに充実して、今まで運動教室を立ち上げてやってきたんですけど、そうした中で子どもたちの笑顔を見ることがやっぱり一番嬉しいなって。その子どもたちが笑顔になるために、いっぱい運動遊びの準備してきて、それが楽しかったし、一番の大学4年間で思い出に残っていることです。

—— なにか困ったなみたいなことは？

中山：そうですね。まあ、（卒論のテーマで言うと、）やっぱり自分たちが考えてきた運動遊びでも、いざ子どもたちに試してみると、うまくいかないとかで、どうルールを変えたら楽しいのかなとか。長い時間かけてやってきたところは苦労しましたが、そこも楽しかったなって思います。

多田：私もゼミが始まってからの専門性ですね。自分は2枚目の免許が特別支援なので、本当に支援学校に向かい合えたのはゼミ始まってから。現場での実践が特に多いゼミだったこともあって、座学でやったことをやろうとしても、うまくいかないこともあるし。でも、座学を受けてないと、こういう経験さえもわからないだろうなっていうこともありました。

—— なるほど。入学する前と、実際 4年間行ってみて、ここは期待以上だったというのがあったら教えてください。

中山：やっぱり学校体験活動とか1年生のうちから現場に出ていけるっていうのはすごいいい機会だったなって思っています。

多田：よかったところは、ほんと一緒に、実践がいっぱいあったのはすごくよかったなって思います。小学校に行く実践もあるし、専門科目で支援学校に行くことがあったので、そういうのがないと、どんなに勉強してもイメージできないし、子どもに指導する際も『これはうまくいったけど、これはうまくいかなかったな』って思えなかったらなっていうのはすごく思います。

—— では改めて特に教員になりたいなって思った瞬間・場面・授業とかありますか？

中山：やっぱり学校体験活動が大きくなって。

—— 学校体験活動って、どういう場面で子どもとやりとりしていたことなどが、今の自分に影響しましたか？

中山：もともとは（大学に）入る前は中高の教員、体育でなりたくなって思ったんですけど、やっぱり小学生とあの場で出会って。体育だけじゃなくて、幅広いものを教えられるのもいいなって思ったのと、あと、やっぱり、学級でずっと子どもたちと一緒にいられるのは楽しいというか。小学校教員の魅力でもあると思うようになりました。

教師になったら

—— さて、4月から教職に就かれますが、現在の期待や、意気込みを教えてください。

中山：ゼミでずっと運動遊びについて研究してきて、春から小学校の教員になるんですけど、多分1年目からも担任持つと思うので、そうした時にもうちょっと体育を面白いものにできたり、運動そのものの概念を少し幅広く捉えて、子どもたちと一緒に体を動かせる教員でありたいなって思います。

多田：ドキドキもしてますけど、私はもう楽しみが一番強いって思います。今のところ。学生時代はもちろん実践はやってきたけど、支援学校だと、1年目は多分担任持たなくて、1クラスに教員が何人もいたりするから、自分だけでじゃなくて、いろんな先生と協力したりとか。でも自分が今まで勉強したこととか、経験とかも活かしながらこんな指導をやりたいなとか、こういうことやってみたら、どういう反応するかなとか思っているものはあるから、そういうのをやってみたいなって思います。

学校外での現場体験

—— ところで、子どもとのふれあい体験とか、学校現場じゃない社会教育施設等との関わり合い方などで気がついたことはありますか？

中山：スポーツ協会の方と連携して、今までやってきたんですけど、やっぱり密に本当に連絡取り合ったり、しっかり時間を取ってお話しないと食い違ってることとかあって、そういった場合には対応に困るので。そう、なるべく連絡は密に取るようにしました。



多田陽南 さん

小学校免許、
特別支援学校免許、
幼稚園免許（二種）
を取得し、富山県で
特別支援学校の教諭
として就職

多田：私はふれあい体験を1年生の時に美術館ワークショップ（＝美術館子どもワークショップ運営コース）でやって、で、3、4年は、ゼミの先生の『子ふれ（＝子どもとのふれあい体験）』のお手伝いをしてるんですけど。学校と家じゃないところでしか見れない子どもの姿は、教員目指すのだったら知っておくべきだと思うし、参加してみたら「あ、やっぱり教員になりたいな」って思う気がします。今、ゼミで行ってる『子ふれ』はゼミの先生の子供もいるんで、家でどんな様子かも知ってるけど、『子ふれ』の時は別の同じぐらいの年齢の子供と一緒にスポーツしたりとか。初めて会う子どももいる中で、やっぱりちょっと違うなって思うこともあるし。学校じゃないからこそ、自由度の高い教育はしやすくて、そこで見られる子どもの姿とかはやっぱり知っておいてよかったと思う。

中山：確かにそうですね（笑）。（近くの）五福児童館とかで実践していたんですけど、学校の姿とは全然違うし。多分家でもこんな姿見せないんじゃないかな。児童館のスタッフとか、大学生の前だからこそ見せる子どもの姿も、あるんじゃないかなって思いました。

教育学部を目指すなら

—— 大学生、後輩たちや、これから、教育学部を目指したいという高校生に向けてメッセージをお願いします。

多田：実践、実践って私たちずっと言ってるけど、4年間かけてなんかやりたいって思ったら、何でもしやすい環境かなと思います。ゼミも専門も。先生たちもいっぱいいるし、こういうことやってみたいって思ったら、現場から来てる大学の先生たちも多いから、じゃあこれやってみるとか、こういうのにしたらいいんじゃないみたいなのもアドバイスもらえたし、それは私が高校生だったら、そういう環境を知れたら嬉しいなって思う。

中山：やっぱり地域スポーツ（改組前の学部）の時よりは、教育学部の体育になって、先生一人に対して学生の人数も多分減ってると思うんで、本当に手厚い支援をしていただいたなって思います。授業で言えば、（各教科の）教育法の授業もそうなんですけど、ICTの関連の授業とか。自分たちが小中学生の時ってまだタブレットもなかったし、その授業の実際というか、どんな授業をしていいのかわかんなかったんですけど、教育学部に来て、ICTの使い方とかその授業で学んだことを実際に附属学校の教育実習で活かしたりとか。今まで自分では得ていなかった新しい知識を存分に知れたなって思います。

多田：授業とかだけじゃなくて。本当にいろんなこと何でも挑戦してみたいと思います。勉強だけ頑張る、大学の授業だけ頑張るとか、ゼミだけ頑張るとかじゃなくて。友達とどこか行ってみるとか、なんでも自分の糧になると思っている人とか関わったりやってみたり、チャレンジするっていうのは、教員目指しているんだしたら、特にあるといいなって思います。

—— 多田さんは現場の先生が研究会やってた堀川小学校の時に自分の専門じゃない図工の授業に来てましたよね。実際に現場の教員の授業を見てどうでしたか？

多田：あの時って、多分支援学級も研究授業あったんですけど、自分の専門だけ見るのももったいないなって思っちゃって。もちろん知識ない状態で行ってもいいのかって思ったりもしたけど。でもいろんな科目で現場の先生の授業を見る機会ってそんなに多くない

し、学生の間にそれが、ちょっと一部だけでも参考になったり、ここ私もやってみようかなとか、そういうのを見つけたくて。いろんな教科の授業に行って、直接特別支援には関係ないけど、見てなんか自分ができたりしないかなとかは思っていました。

—— 改めて、高校生はどういう気持ちでこの学部を目指して欲しいと思いますか？

多田：子どもが好きなら大丈夫（笑）。

—— 子どもが好きだったらっていう話だったけど、子どもが好きなだけで大丈夫そう？。そのあたり高校生に向けて、資質っていうか子どもが好きプラス何かっていうところが、もしあるんだったら、聞かせてください。子ども好きプラスアルファっていうところ。

多田：プラスアルファはどんな教員になりたいかがある程度明確にあったら、頑張りやすいかも。そのために何をしたらいいかって逆算的に考えられるから、いろんな授業取ってみるとか。小学校の教員目指してるんだったらじゃあ2枚目の免許はどれにしようとかも考えられると思うし。別に最初から具体的に考えられなくても。あ、あと学び続ける意欲がないと大変だと思う。

中山：うん、そうですね。

多田：大学入って、免許の最低限の単位が取れたらいいやとかだと多分大変。本当に教員目指すんだったら、さっきもちょっといろんなこと体験したらいいっていう話もしたけど。自分からいろんな情報を収集したり、チャレンジしたり、別に教員じゃない人との繋がりもあるかもしれないし、そういうのも含めて学び続けるっていうのは多分教師になってからも学び続けたいといけないうし、なる前の大学にいる時から、それはやらなきゃいけないなって、思います。

—— ということで時間となりました。ありがとうございました。お二人とも。

多田、中山：ありがとうございました。

中山一心 さん

小学校免許、
中学校免許（保健体育）、
高等学校免許（同）
を取得し、新潟県で
小学校の教諭として
就職



豊かな人材を育てるために

■教育実習

教育実習では、附属学校園だけでなく、協力学校にもお願いし、学生を受け入れる体制を整えていただいています。大学で実体験としては学びにくい発問の仕方、板書の仕方、児童との接し方など、実際に教育現場に立ったときに役立つ内容について、丁寧な指導を受けられます。

2年次には、観察参加という、先輩方の実習を観察しながら、教育実習の雰囲気や子供たちとのコミュニケーションを見て学ぶ機会が設けられています。実際に授業をする教育実習は3年次と4年次で行われます。3年次で中学校の実習をした場合は4年次では小学校での実習となるなど、別の校種で2回の教育実習を行います。教育学部では、教師として求められる資質や能力を身につけるための環境と体制づくりに、常に心を配っています。



附属小学校での教育実習



附属幼稚園での教育実習

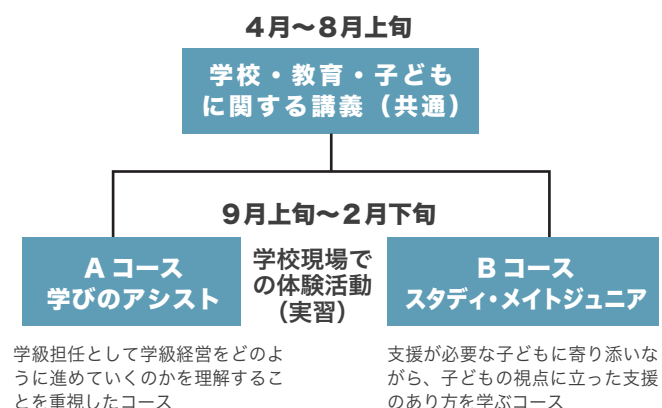
附属中学校での教育実習

■学校体験活動（学びのアシスト／スタディ・メイトジュニア）

「学校体験活動」は、1年次の4月から2月までの通年で、講義と配置校での実習を併せもった創造的な授業です。この授業を通して、子どもたちが郷土に愛情と誇りをもち、生き生きと逞しく生きる力を身につけられるように、使命感をもって臨む教師が一人でも多く育つことを期待しています。

4月から8月上旬までの講義を通して、学校や教育や子どもについて知識を得たのち、9月上旬から2月下旬までは学校現場での実習となります。この実習では、2つのコースにわかれます。Aコースは「学びのアシスト」、Bコースは「スタディ・メイトジュニア」です。どちらも学校現場に身を置き、子どもたちの学びや育ちを支援します。両コースともに、富山県（市町村）教育委員会と富山大学教育学部の緊密な連携・協力のもと、教員志望の学生が進んで個々の学校にアシスタント・ティーチャーとして直接参加します。学級経営活動や子どもの支援活動に携わりながら、自らの資質・能力等の向上を主体的に図っていく姿勢が不可欠です。

また、この授業には富山県教育委員会から交通費の助成があります。将来の教員の担い手である学生は、県から大きな期待をされています。



■観察実験アシスタント

授業やゼミの空き時間を活用し、毎週1回程度通勤する「長期のインターンシップ（有給）」で、小学校・中学校理科の実験・観察の準備・片付け、予備実験、授業補助、理科室や理科準備室等の環境整備をするのがその仕事です。いずれも、小学校・中学校の理科の授業を行うための重要な仕事で、これらを学校で経験することで、学生時代に理科の授業づくりについての現場感覚を磨くとともに、教職への意欲を高めています。

観察実験アシスタントが理科の授業に必要な基本的な知識や技能を身に付けるために、6月と8月に富山県総合教育センターで行われるのが実技研修会です。6月は前期勤務開始の学生が、8月は後期勤務開始の学生がそれぞれ受講対象で、物理、化学、生物、地学の4分野に分かれて研修を受けます。

研修内容は、単眼（双眼実体）顕微鏡による微生物・鉱物の観察や水溶液のろ過および蒸発乾固といった小学校・中学校理科の指導に直結する内容、実験器具の洗浄方法や電気を使った実験の基本操作と安全指導、児童生徒への学習補助の仕方など多岐にわたります。

これらの研修内容や日々の観察実験アシスタントとしての活動は、将来教職に就いたときにも大いに役立つものです。

■外国人支援スタッフ

教員志望の2年次以上の学生を小学校・中学校に派遣し、外国人児童生徒への学習面でのサポートや生活面での補助等、学校生活支援に取り組んでいます。

■英語学習パートナー

英語を得意とする学生を小学校に派遣し、英語学習パートナーとして外国語活動・外国語科の指導補助に取り組むことにより、児童の英語でのコミュニケーションへの意欲の向上を図りながら、指導を一層充実させるとともに、教員志望の学生の資質・能力等の向上を図ります。

■心のサポーター

学部授業「臨床心理実習」として実施します。県教育委員会、市町村教育委員会及び富山大学教育学部の連携・協力のもと、心理学系の3・4年次の学生及び大学院生を県内の小学校・中学校（主に中学校）に派遣し、休憩時間や放課後等に行う相談活動の補助を同一校において継続して行います。相談活動を一層充実させ、個に応じたきめ細かな支援を推進するとともに、教員志望の学生の資質・能力等の向上を図ります。

■ICTサポーター

ICT情報通信技術を活用した授業や活動に関心のある学生を小学校に派遣し、「ICTサポーター」としてタブレットやパソコンなどを学びや学校生活に生かすことができるようにサポートします。児童の学習意欲を高めるとともに、興味の幅を広げることにつながる活動です。

教育学部のポリシーについて

このような人を求めています

- 専門職としての教員を目指す熱意にあふれ、仲間と協力しながら専門的能力・技能を伸ばしていける人を求めます。特に以下のような点を重視します。
- ・教育を通じて、地域社会の発展に貢献しようという強い意志を持つ。
 - ・教員を真摯に目指し、人を育てることの大切さと喜びを感じられる。
 - ・現代の教育課題を含む幅広い分野に興味・関心を持っている。

このような教育を行います

- ・学校教育についての理解を深め、教員としての専門的知識と実践力を学ぶ。
- ・現代的教育課題に挑戦する意欲や能力を身に付ける。
- ・1つの専門領域や校種に限定せず、幅広い視点を養う。

※各ポリシーの全文は、本学ウェブサイトに掲載しています。

このような人を育てます

- 豊かな人間性と社会性、教育への情熱と使命感を持ち、教科や教職に関する専門的知識と技能を身に付け、新たな教育的課題に適切に対応できる実践力を備えた、以下のような教員を育てます。
- ・教員としての豊かな人間性と社会性、幅広い教養と知性を持ち、自己研鑽を積む態度を身に付けている。
 - ・子どもへの教育的愛情、教員としての使命感・責任感・倫理観、子どもの理解に関する知識を身に付けている。
 - ・教職に関する専門知識と技能、教育を実践する基礎的能力を身に付けている。



附属中学校での授業実習

令和9年度入学選抜

詳細は選抜要項(令和9年度)をご確認ください。

入試区分(定員85名)	各区分の定員	検査内容(概要)
前期日程	56名	大学入学共通テスト、個別テスト
後期日程	10名	大学入学共通テスト、面接
総合型選抜Ⅰ(スポーツ実技型)	5名	書類審査、実技(運動技能検査)、面接
総合型選抜Ⅱ(芸術型)	音楽3名、美術3名	大学入学共通テスト、書類審査、面接
総合型選抜Ⅱ(家政教育型)	3名	大学入学共通テスト、書類審査、面接
学校推薦型選抜Ⅱ(幼児教育・特別支援教育型)	5名	大学入学共通テスト、面接、集団討論
帰国生徒選抜	若干名	個別テスト、面接(書類審査を含む)
社会人選抜	若干名	個別テスト、面接(書類審査を含む)

こども性暴力防止法*の施行による教育実習関連の対応について

こども性暴力防止法の施行により、学校や保育所、学習塾など、こどもに対して教育・保育などを行う事業者には、性暴力を防ぐための取組が求められます。実習生についても性犯罪前科の有無の確認が求められる場合がありますので、留意点をお知らせします。

【事業者求められる取組】

- ・日頃から、こどもを性暴力から守る環境づくりを進めます。
- ・こどもと接する業務に就く人に、性犯罪前科の有無を確認します。
- ・性暴力のおそれがある場合は、こどもと接する業務に就かせないようにします。

【実習生に関する留意点】

- ・実習計画において、こどもと一対一になることが実習上予定されている、実習期間が相当長期にわたるなど、実習生がこどもに対して支配性、継続性及び閉鎖性を有する実習であると判断された場合、性犯罪前科の有無の確認が必要となる場合があります。なお、性犯罪前科の有無の確認が必要かについて最終的な判断は実習先の事業者が行います。
- ・性犯罪前科の有無の確認が必要であると判断された場合、実習生本人よりこども家庭庁へ戸籍等の提出が必要となります。
- ・性犯罪前科があると確認された者は、こどもと接する実習はできないこととなります。
- ・富山大学教育学部の「教育実習」では性犯罪前科の有無の確認は実施しませんが、「教育実習」前に性犯罪前科がない旨の誓約書の提出を求めます。
- ・性犯罪前科がある場合、「教育実習」「保育実習」はできないため、教員免許状、保育士資格を取得できません。
- ・教育学部において必修科目である「教育実習」を行うことができない場合は、卒業できません。

* 正式名称は「学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律」

子どもとのふれあい体験

「子どもとのふれあい体験」は、20年以上続いている、教育学部の1年生対象の特徴ある授業科目です。社会教育や生涯教育の分野で子どもとふれあう体験を通して、教育の本質を体験的に学ぶ機会を提供する目的で設定されています。この科目は、単に大学内だけに留まらずに、各コースとも地域社会に出て、関係団体・施設等との関わりの中で、人を育てる人を育成する科目として非常に重要な役割を果たしています。この科目を選択して、年間60時間の活動を行い、体験レポートを作成すると、2単位を取得できます。社会と繋がる貴重な実践の場として認識されています。



科学実験・ICT活用コース

本コースでは、主に学校外における教育機会への参加を通じて、子どもとのふれあいの中で広い意味でのサイエンス・教科教育・ICT活用を行うための基礎を学びます。子どもに「楽しい」「面白い」と感じてもらいながら正しい科学やICTの知識を身につけてもらうための工夫を重ねる中で、自分自身（受講生）の学習と教育実践を結び付ける力を養います。

子どもたちを対象にした楽しい

実験の場を設けるための企画立案や実験内容の検討を行いながら、安全に配慮した子ども向け実験・ICT活用を行うための力を養います。



体育&自然体験&英語&インクルーシブ教育コース

体育&自然体験&英語&インクルーシブ教育コースは、国籍、人種、性差、言語、宗教、経済状況、障害のあるなしに関わらず、すべての子どもと様々な活動を行うコースです。体験内容は、コーディネーショントレーニング、バスケットボール、サッカー、テニス、ドッチボール、スキー、スケート、登山、宿泊学習、畑づくりなど様々な内容があります。さらに、これらの体験は、簡単な英会話を通して進んでいきます。子どもを引率する技術や安全への配慮も学べます。写真は、子どもが学生に、バスケットボールのボールコント

ロールを教えてもらっているところです。

また、これとは別に、発達障害のある方の余暇支援も行います。一緒に買い物に行ったり、料理を作ったりします。発達障害のある方との接し方、伝え方などを学んでいきます。



遊び援助コース

遊び援助コースは、児童期の健全育成を体験的に理解するためのコースです。小学生は家庭・学校で生活するだけでなく、地域の様々な施設を利用して毎日を過ごしています。このコースでは、健全な遊び場を提供して放課後や土日祝日・長期休業中の子どもの生活を支える、児童福祉のための施設で子どもたちとふれあう体験を行います。このコースに参加する

ことで、学校では見られない子どもの姿を身近に感じたり、小学校が児童健全育成施設とどのように連携すべきなのかを考えたりすることを目的としています。



美術館子どもワークショップ運営コース

本コースでは、富山県内の美術館における子ども対象のワークショップ「とみだい☆ベケベケアートショップ」を準備・運営します。ここでは、展示作品の鑑賞をきっかけにした制作を行うワークショップを通して、子どもたちとふれあうことを目的とします。美術作品に親しむことを核にした作品との出会いの仕組みを考えたり、楽しいものづくりの準備を行うことで、子どもたちに興味・関心を抱かせるための活動をどのよ

うに運営していくかについて実践的に学ぶことができるようにします。また、地域の美術館や博物館などの施設とどのように連携すべきなのかを考えることも重要な目的です。



子どもと地域プロジェクトコース

子どもと地域プロジェクトコースでは、主に小学生を対象とし、コミュニティにおける子どもの活動を計画し実践することを通して、学校・家庭とは別の「地域」に子どもたちが包摂されることの理解を目的としています。子どもたちには外国ルーツの子たちも含み、多様な子どもたちの様子を学びます。年間を通して、運動（体を使った遊び）、室内ゲーム、室

外活動（畑での野菜栽培）、動物飼育（カブトムシの飼育）、学習活動、など様々な活動をし、地域の子と交流します。

子どもたちが地域の資源・住民と関わり交流するなかで地域でのつながりを強め、安心できるコミュニティを作っていくことを実感し、その意義を語り合ひましょう。



子どもの運動あそびコース

本コースでは、幼児から中学生を対象とした、運動あそび教室「キッズムーバーズアカデミー」を企画・運営します。昨年度は富山大学で行うイベント、近隣の児童館での教室、市町村への出前教室などを行いました。運動が得意な人は、からだを動かす楽しさをみんなで分かち合いませんか？運動が苦手だと思っている人は、苦手意識があるからこそ工夫し

て「楽しい♪」「できそう！」「できた！！」と思える運動あそびと一緒に作成しませんか？

ムーバーズとは楽しくからだを動かし、運動の楽しさを味わう人。みんなもムーバーズになろう！



家庭科内容学コース

本コースでは、家庭科の内容学教育の企画・運営を通して、児童・生徒の理解度に合わせて思考する能力を養うことを目的とし、次のような達成目標を設定しています。本コースに参加することで、皆さん自身もより充実した生活を営んでいくことにつながると考えられます。
・家庭科内容学の基礎となる知識や技術についての理解を深め、

生活の中の事象を科学的に捉える。
・児童・生徒の発達段階や実態に合わせた家庭科内容学に関わる教育活動を企画・運営する。
・家庭生活における持続可能性について理解する。



発達の気になる子どもの援助コース

本コースは、発達の気になる子どもたち、特に中学生と高校生にとって、「仲間と適切に関わる活動を通して、楽しい時間を過ごすことができる」「自分の好きなことや得意な活動を見つけることができる」ための、活動の機会や場を企画・考案・提供し、ともに楽しみながら活動することを目的としています。具体的には、以下の活動を通して、子どもの発達と社会参加について考える力を養います。

① 軽スポーツ：大縄跳びやバドミントン、モルック等

② 余暇活動：皆で楽しめる室内ゲーム、少人数でできるカードゲームや卓上ゲーム等
③ 外出：ボウリング場など公共施設の利用、商業施設でのショッピングやレストラン利用等



野外活動コース

本コースでは、ボランティア活動の基本的な考えや野外活動（自然体験）の魅力を理解するとともに、野外活動を安全に実施するための基礎的技術を習得し、子どもたちと充実した野外活動ができるようになることを目指します。

子どもたちの学習や生活をサポートする活動を通して、子どもたちの学習・生活上の特性や関係づくりの方法を理解し、子どもの発達を支援することを学びます。

学校教員になった際には、学外実習として開催される遠足や修学旅行で活用できる知識や技能となります。



歴史の道場：歴史家への一步コース

子どもたちに、歴史的な物語をもとに遊び・学ぶことの面白さや充実感を味わってもらうことを目指して活動しています。活動内容は、歴史的な物語をテーマとした数回のワークショップの企画・運営です。活動では、子どもの興味関心や主体的な活動を尊重し、子どもが主役、学生はサポート役という意識で臨んでもらっています。子どもたちと、歴史に遊び・学ぶことで、ともに“歴史家”への一步を踏み出してもらいたいと思っています。

本コースで対象とする歴史は、

文献史学の範囲（文字以降の時代）を中心としながら、文字以前の時代、ひいては人類誕生よりも前まで、時間幅を広く扱います。学問分野としては、歴史学（文献史学）をはじめとして、考古学、生物学、社会科教育学に関わり、社会科や理科といった教科の枠を超えた視点も含みます。



協力してくださっている学外の施設等

（順不同）

富山県こどもみらい館
富山県砺波青少年自然の家
富山県埋蔵文化財センター
国立立山青少年自然の家
富山市科学博物館
HOKUGIN ギャラリー・ミレー
南砺市立福光美術館
射水市大島絵本館
富山市民俗民芸村 簗牛人記念美術館
黒部市美術館
魚津埋没林博物館
富山市立五福公民館
富山市ファミリーパーク
安田城跡（富山市）

開設科目の紹介

地域教材研究（富山学）

本講義の目的は、富山県に関する歴史・自然・産業・文化など富山県に特色ある内容を取り上げ、地域に対する理解を深めることを通して、(1) 教員としての情熱・希望・使命感を高めるとともに(2) 教材開発などの実践的指導力の向上を図ることにあります。この講義においては、富山県教育委員会から派遣された各教育事務所等の指導主事・研究主事・教育専門員などの講師の方々に、15 回の講義の内 12 回分を担当していただいています。

教授・学習心理学（個別最適化学習の理論と実践）

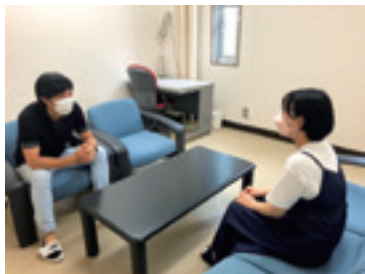
この講義では、心理学の知見から明らかにになった子どもの学習に関する基礎的な知識を身に着けることを目指します。そして、子どもの発達や能力・適性を踏まえた個別最適化学習を支える指導について基礎的な考え方を学びます。教師としての効果的な教授法を学ぶだけでなく、大学生として効果的に学ぶためにはどうしたらよいのか、

講義を通して考えていきます。



教育相談の理論

この講義では、学校教育現場で起こりうる子どもの適応上の問題を理解し、実際の教育相談で使うことのできる学校カウンセリングの習得を目指します。その際、学校心理学を基盤としつつ心理教育的援助サービスの実践を理解し、すべての子どもを対象としたチームとして行う学校カウンセリングがどのようなものかについて考えていきます。



小学校プログラミング教育の理論と実践Ⅰ・Ⅱ

この授業は小学校プログラミング教育の位置づけや理論について、講義やグループ活動を通じて理解していきます。

I では、児童が実際に使用すると考えられるブロック型プログラミング言語を学生自身がプログラミングを体験しながら学びます。また、近年急速に普及が進んでいる生成 AI についても、実際の体験を通して、その活用方法等を考えます。

II では発展的な内容として、テキスト型とブロック型のプログラミング言語や、

バイブコーディングとの比較をしながら、プログラミング的思考を理解し、各教科等においてプログラミングを取り入れる場合の考え方について学修します。それらを踏まえて、実際の授業を想定した学習指導案を自分たちで考えます。



特別支援教育実地演習

この授業では、特別支援教育の概要や障害種に応じた教育施設・教育内容について理解するため、視覚障害教育、聴覚障害教育、知的障害教育、肢体不自由教育、病虚弱児教育を行っている特別支援学校の施設及び授業見学を行います。大学における講義だけではなく、実際に特別支援学校を訪問し、具体的にかつ体験的に学ぶことができます。



幼児と表現

幼児の表現（身体・音楽・造形）について学ぶ科目です。授業では、幼児の表現の事例を学んだり、その発達を促す遊びを実際に体験したりします。この写真は、幼児の造形表現の発達を促す教材作りを体験している様子です。



幼児と人間関係（社会性のつまずきと支援の現代的課題）

幼稚園の免許のために必要な保育内容の 5 領域の 1 つ、「人間関係」の専門的な内容を伝える授業科目です。金沢大学にも『幼児と人間関係』という科目がありますが、富山大学の授業では、発達の問題がどのような原因によって生じるのか、どのような発達支援が有効なのかについて、脳科学の研

究成果も踏まえながら解説します。



特別な支援を要する子どもの理解

この授業では、特別の支援を必要とする子どもの学習上または生活上の困難を理解するために必要な、発達障害や知的障害をはじめとする障害の特性及び心身の発達を学びます。知的障害・精神障害児の診療を行っている小児科医が、その経験を活かして事例を紹介しながら金沢大学と富山大学を遠隔システムでつないで講義を行います。



理科基礎 A (理論)

小学校理科の授業（主な領域：エネルギー、粒子、生命、地球）を担当する力をつけるために、物理・化学・生物・地学の4分野に関する基礎的な理論を学びます。物理分野では主に力と運動や空気と水の性質、音や光の性質、電気と磁石について、化学分野では主に物の溶け方や水溶液の性質について、生物分野では主に植物や動物のつくりや働き・成長や誕生および生物と環境の関わりについて、地学分野では主に流れる水のはたらきと土地の変化、天気の様子や変化についての理解を深めます。子どもたちが理科を楽しみながら科学的思考力を伸ばす授業づくりの素養を育みます。



社会科基礎 A (中学年の社会科と現代の教育課題)

富山県・石川県に関する近年の地域研究の成果も踏まえながら、地域学習の比重の大きい小学校中学年（3・4年生）での社会科授業を組み立てていく力を養うことを目的とします。

社会科の3つの分野について、具体的には以下の内容とします。地理的分野では、身近な空間を経験する中から地理的知識を発見する方法、それを整理し理解する方法などについて体得します。歴史的分野では、初等中等教育における歴史教育の在り方と問題について認識を深めます。公民的分野では、初等中等教育において教える基本的概念を理解します。総じて社会科を支える各学問の基本的視角やその教育方法の理解を深めることを期待します。

初等生活科教育法Ⅰ・Ⅱ

生活科は、小学校第1・2学年にのみ設置されている教科です。その特色は、子どもたちが具体的な活動や体験を通して学ぶということ、そして、子ども一人一人の思いや願いを実現する過程を学習の過程として構成するということです。初等生活科教育法Ⅰ・Ⅱでは、生活科を指導する教師に必要な知識・技能を身につけます。つまり、子どもの興味・関心を支え、学習意欲を喚起する教材の工夫、授業展開、単元構成の工夫などについて、理論的・実践的に



学びます。写真は、身近なものを使った遊びとして、かみひこうき大会を行っています。簡単な遊びのなかにもその子なりのこだわりや思い、工夫があることでしょう。子ども一人一人の個性を支える温かな教育的まなざしと確かな実践力を身につけることを期待します。

初等理科教育法Ⅰ・Ⅱ

小学校理科では子どもたちが興味や関心をもって観察や実験に取り組むなかで、科学的に問題解決に取り組む授業が求められます。この授業では、小学校において理科の授業を行うために必要な知識と経験を身に付けるため、理科特有の内容である観察や実験を授業の中で安全に気を付けて実施する方法や、タブレットを用いた授業やプログラミング教育などについて学びます。これらの知識と経験を活用し、授業事例

の分析だけでなく、指導案の作成、模擬授業などを行いながら、興味関心をもって取り組める理科授業を行う力の育成を目指します。



初等図画工作科教育法Ⅰ・Ⅱ

この授業では、学校教育の現場における取り組みを想定した内容の紹介を目指して構成しています。特に小学校の低学年から高学年にかけての図画工作科の各領域の題材を実際に体験しながら、学習指導要領（新学習指導要領を含む）を踏まえた理論との関連を確認し、この教科で身に付けるべき学力に

ついて、考えていくことができるようにします。



初等音楽科教育法Ⅰ・Ⅱ

小学校音楽科の授業では、音楽表現の技能や鑑賞に関わる知識を身につけるだけではなく、それらをもとに子どもたちがよりよい表現を工夫したり、音楽を味わって聴いたりすることが大切です。この初等音楽科教育法では、そうした授業をデザインできるようになる

ための理論を中心に、具体的な授業事例を紹介しながら学修します。



開設科目の紹介

国語科基礎 A (書写を含む)

知識及び技能、「読むこと」「書くこと」領域の内容理解を目標とした授業を実践するための国語科の各分野の基礎知識を概説します。先行研究で基礎を固めた上で、エビデンスに基づく計量的な研究成果も踏まえて、現代的な国語科の授業・研究のあり方を提案します。知識だけではなく、十分な実践力を育成するために、必要に応じて簡単な課題の作成、発表など行う場合もあります。受講者と一緒に、地域・現代の文学作品、方言、伝統芸能を題材に地域に根差した国語科の学習を創造します。

算数科基礎 A (低・中学年)

小学校で算数を教える際に必要となる数学の基礎を学びます。特に、数、関数、方程式などについての理解を深めることを目的とします。数については、素数や約数の諸性質、商と余りの定理とその応用などを学びます。関数については、その定義を理解したうえで幾つかの具体例を考察します。方程式については、その仕組みを様々な角度から考えます。算数と数学へのさらなる興味をもたれることを期待します。

音楽科基礎 A

子どもたちに「楽しい!」と思わせる音楽科教育の裏には基礎的な学習の積み重ねがあります。音楽はあらゆる学問に通じる側面を持っており、幼児期から欠かせない要素です。この授業で楽典から歴史や演奏論まで幅広く学んで基礎的な力を身につけることが、音楽科教育の第一歩になります。

教育の思想と歴史 (西洋)

この講義では、「教育とはそもそもどんな営みか」、「子育てや学校はどう変化してきたのか」といった問いのもと、西洋における教育の思想と歴史を学習します。こうした学習を通して、教育学の各分野や各教科の教育を学んでいくための土台を固めるとともに、現代社会における教育や学校の意義・可能性・課題について批判的・創造的に考える力を養います。

陸上 I

すべてのスポーツの基礎となる「走る・跳ぶ・投げる」について、「より速く、より速く、より高く」パフォーマンスを発揮させる指導方法を学びます。国際陸連コーチ資格 (CECS レベル 4 コーチ) を有した教員が担当し、スポーツ心理学 (心)、バイオメカニクス (技)、体力学 (体) の研究知見をふまえながらも、豊富な現場指導の経験から得た実践の知識も提供します。授業の振り返りでは、受講

生が先生役となり他の学生を指導することで、現場での実践力を育みます。



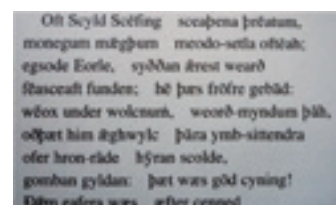
英語学概論 I (文法と現在の英語教育)

英語学の基本的な概念を学び、英文法をより深く理解するための基礎を作ることを目的とします。英語学の諸分野のうち比較的とつきやすい形態論や英語史などを手始めに取り上げます。

形態論では、philosophy → philo + sopathy のように単語の成り立ちや内部構造を勉強します。英語史では、cynning → king のように昔の英語から現在の英語にかけての変化を考察しま

す。こうした専門的知識を今の英語教育の現場でどう活かすのかも受講者各自が考えることを期待します。

写真は昔の英語で書かれたベーオウルフという書物です。



デザイン基礎 II (映像メディア表現・現代美術表現を含む)

デザインについて理解するためには、目的や機能を踏まえて事象や対象を捉える視点が必要です。その視点に立ち、中学校美術科のデザイン分野につながる専門知識・技能を深めるために、教科書に基づいた課題制作 (シンボルマーク、模様のデザイン、立体を意識したデザインなど) を行います。

コンピュータを用いた加工もとり入れ

ながら、幅広い学習内容をもとにデザイン表現の可能性を追求します。



政治学概論Ⅰ・Ⅱ(現代的課題を含む)

この授業では、主要な政治学の理論を扱います。政治学とは、統治(国内政治では Government、国際政治ではより緩やかな Governance)、つまり統治者、被統治者、そしてメディアとしての権力を巡る関係の在り方を中心として研究する学問です。特に現代ではグローバル化が著しく進展し、国境を超えた相互連関は、政治的な側面においても深化しています。その観点からこの授業では、国内社会のみならず、国際社会をも射程範囲とします。そのため、Ⅰでは Government に関する理論(主に民主主義について)、Ⅱでは Governance に関する理論(国際政治を捉える主要な枠組み)を取り上げます。それにより、受講者が今日の世界のダイナミズムを分析するツールを活用するための能力を養うことが、本授業のねらいです。

社会学概論Ⅰ(現代的課題を含む)

社会学の入門的な内容を学び、主に地域社会学・社会福祉学での捉え方を用いて地域社会や人間関係の変化とそれに関連する諸問題について考えます。

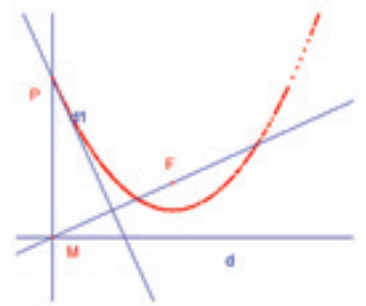
「社会学とはどんな学問であるか」の導入からはじまりますが、「人口の変化と地域社会」「都市的生活とコミュニティ」「社会集団・組織」など地域社会学に含まれる内容を理解します。「現代的課題と社会関係資本(ソーシャルキャピタル)の関連性」は現代社会の課題について人と人のつながりなどの観点から捉え、考えます。最終的には、社会問題とは何かについてそれぞれの考え深めることを目標にします。

異文化理解Ⅰ(英語教育の中の異文化理解)

異文化理解や異文化コミュニケーションに関連する英語文献を読んだり、映像を視聴したりして、文化の多様性や異文化間に生じる課題等を理解し、様々な国一特に英語圏一の文化や歴史の枠組みからその問題を捉え、解決できる素地を養います。また中学・高等学校における外国語科目の授業に役に立つ知見を身につけることを目指します。

数学科教育法Ⅰ・Ⅱ(富山県の実践を含む)

中学校や高校で生徒にどのように数学を教えたらいのかその教え方を学ぶ授業です。この授業では、数学の授業を計画するためにインターネットの活用や数学教育用ソフトを使った実習を中心に授業を進めています。それ以外にも実際に数学教育用ソフトを使った指導案の作成と発表なども行っています。



住居学概論Ⅰ・Ⅱ

日本の地勢や気候に伴う住居への対策や、サステナブルデザインやSDGsを含めた都市環境の課題について紹介した上で、熱・空気・音・光の住環境要素と人間の反応を踏まえた環境制御方法について講義します。季節の変化に合わせた住環境の制御方法に関する解説を通して、快適で省エネルギーな住まいを創造する意義や方法を具体的に理解することを到達目標とします。住居学に関する基礎知識を習得し、

建築環境工学の手法や設備を理解した上で、地球環境問題への住生活の関わりについて考察できるようになることを目指します。



器械運動Ⅱ

この授業では、器械運動の指導法を学習する前提として、マット、とび箱、鉄棒の様々な技の習得を目指します。写真は、本学で開発された逆上がり練習器を使った練習風景です。



調理実習(地域の食文化比較を含む)

中学校・高等学校の家庭科教員として必要となる調理操作、および衛生面・安全面・環境面・栄養面などに配慮した食品の取扱いなど、調理実習に関する基本的な知識と技能を実践的に学びます。また、北陸地域の食材を用いた郷土料理についても扱い、理解を深めます。



アクセス



●詳しくはホームページでご確認ください。

【東京から】・羽田空港から富山空港へ(約1時間)
・北陸新幹線でJR富山駅へ(約2時間10分)

【大阪から】・JR大阪駅からJR敦賀駅へ
北陸新幹線に乗り換え(約3時間)
・名神高速道路～北陸自動車道～富山I.C.

【名古屋から】・JR名古屋駅からJR敦賀駅へ
北陸新幹線に乗り換え(約3時間20分)
・名神高速道路～東海北陸自動車道～
北陸自動車道～富山I.C.

【北海道から】・札幌・新千歳空港から富山空港へ
(約1時間30分)

五福キャンパス & 杉谷キャンパス



【富山駅前から五福キャンパスへ】
・市内電車:「富山大学前」行き、「富山大学前」下車(約15分)
・路線バス:「富山大学前経由」(4番乗り場),
「富山大学前」下車(約20分)

【富山駅前から杉谷キャンパスへ】
・路線バス:「富山大学附属病院循環」(3番乗り場),
「富山大学附属病院」下車(約30分)

※五福キャンパス内の外来専用駐車場が手狭なため
ご来学にあたっては、なるべく公共交通機関等
をご利用くださいますようお願いいたします。

※五福キャンパス:人文学部、教育学部、経済学部、
理学部、工学部、都市デザイン学部

※杉谷キャンパス:医学部、薬学部、
富山大学附属病院、和漢医薬学総合研究所

※高岡キャンパス:芸術文化学部

※五稜地区:富山大学教育学部附属学校園

※寺町地区:国際交流会館、新樹寮



Live & Learn in Toyama.

富山で学ぶ。富山大学で学ぶ。

表紙写真:「学び舎を見守る立山連峰」

撮影:イナガキヤスト



教育学部ウェブサイト:

URL: <https://www.edu.u-toyama.ac.jp>



富山大学教育学部

〒930-8555 富山県富山市五福3190 Tel. 076-445-6259

E-mail: kyominfo@adm.u-toyama.ac.jp

2026.04

※掲載情報は2026年4月現在のものです。最新情報はWebサイトにてご確認ください。

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。